

2018 年度 教 育 研 究 活 動 報 告 (様式9 (2018))

氏名 須藤 秀夫	職名 教授	学位 修士 (経営学) (米国ペンシルバニア大学ウォートン校 1978 年)
----------	-------	---

研 究 分 野	研究内容のキーワード
国際金融、 国際経済、 国際ビジネス	金融危機、 金融資本主義 企業の社会的責任(CSR) ESG 投資

研 究 課 題
・金融危機および通貨危機を発生させる要因 (企業統治、米国金融規制緩和など) について考察する。 ・企業の社会的責任(CSR)、CSR を基準にする投資(SRI、または E (環境) S (社会) G (ガバナンス) を重視する ESG 投資) について、欧米と日本での動向を考察する。

担 当 授 業 科 目			
科 目 名	単 位 数		
	必 修	選 択	
国際経済入門 (2 学科合同) (前期)		2	
国際ビジネス論 (2 学科合同) (前期)		2	
日本経済入門 (前期)		2	
インターンシップ (前期)		2	
人文学入門 (前期)	1		
初年次セミナーI (前期)	1		
初年次セミナーII (後期)	1		
専門演習 II (前期・後期)	2		
卒業研究 (前期・後期)	4		
多国籍企業論 (後期)		2	
ビジネス・ファイナンス (後期)		2	
応用日本語 (留学生対応) (後期)	1		
前期 8 科目 後期 6 科目			

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【国際経済入門 (前期)】(観光文化学科と英語学科学生向け 2 学科合同) ・学生の疑問・質問を「出席票(兼)質問票・感想票」に書かせ、学生にとって授業で分かりにくかった点等を把握しつつ、次の授業で解説して、学生の理解を向上させることに努めた。 ・複雑な事象 (例えば、通貨危機、世界的金融危機等) の因果関係、仕組みなどをなるべく図示して、また最新のデータや写真を使って解説し、学生の興味を引き出すことに努めた。 ・最近の新聞記事を配付して、授業で扱っている国際経済の事項 (輸出とアベノミクス、自由貿易協定 FTA/EPA、ドル円為替相場等) が、現在進行中の世界と日本の出来事であることを理解させるように努めた。 ・学生の国際経済に対する関心・意識を向上させるために、新聞・雑誌の記事等から得られる情報に関するレポートの提出課題を与えた。 ・覚えてほしい語句については、授業で学生を指して予備知識の有無を聞きながら重要性への意識を高めさせたり、また、教材の中で穴埋めの形で学生の注意を促す工夫をした。

授業科目名【国際ビジネス論（前期）（英語学科学生および観光文化学科学生向け合同）】

- ・学生からの質問を「出席票(兼)質問票・感想票」の形で受け付け、学生にとって分かりにくかった点、知りたいこと等を把握しつつ、次の授業で解説して、学生の理解を向上させること、積極的な受講態度を引き出すことに努めた。
- ・複雑な貿易取引、対外直接投資の仕組みなどをなるべく図示して解説し、理解しやすくなるように努めた。
- ・国際ビジネスの現場の状況、考え方を知り、理解してもらうために、商社の中国ビジネスの歴史的事例、多くの学生が関心をもつ日本航空の中国人マーケットでの文化的摩擦の事例を取り上げ、提出課題とした。これによって学生が国際ビジネスの異文化理解および異文化間コミュニケーションの側面に関心を寄せることを狙った。
- ・貿易・直接投資の取引に関する新聞・雑誌の記事を紹介し、学習していることが現在の世界のビジネス社会で起こっている事例と関係していること、また就職事情にも関係することが理解できるように努めた。
- ・覚えてほしい語句（例えば、タックスヘイブン）については、授業で学生を指して予備知識の有無を聞きながら重要性への意識を高めさせたり、また、教材の中で穴埋めの形で学生の注意を促す工夫をした。

授業科目名【日本経済入門（前期）】

- ・1年生向けなので、経済に関する基本的な用語、考え方に馴染んでもらうことを主眼とした。
馴染んでもらいたい重要な語句（例：需要と供給）を、教材の中で穴埋めの形式にして学生に書かせ、学生の注意喚起を促した。また、語句の説明などでは、図や写真を用いた。
- ・日本の経済・社会の情勢等（少子高齢化、子供の貧困、就職環境、女性の社会進出、政府の財政状況、観光と経済など）について、最新のデータを使って解説し、今日的な経済社会問題として学生が身近に感じることを狙った。
- ・経済事象がこうなると（例：物価が低下すると、金利が低下すると）次にこうなる、という理屈を理解してもらい馴染んでもらうことを重視した。
- ・「出席票(兼)質問票・感想票」を使い、学生の理解が不十分なのはどうか、学生が関心を寄せるのはどうかを把握し、それに基づいて次の授業で解説し学生の理解の改善に努めた。
- ・学生の経済に対する関心・意識を向上させ、経済記事に目が向くようになることを狙いとして、新聞・雑誌の記事等から得られる情報に関するレポートの提出課題を与えた。

授業科目名【インターンシップ（前期）】

- ・外部の企業・機関に実習しに行くので、先方に嫌がられることのないように、学生には①学ぼうとする姿勢を示すこと（業務上のどんな小さなことでも意味があるとの意識を持つこと）、②（指示待ちの姿勢ではなく）役立とうとする姿勢を示すこと、③挨拶をすることの3点を再三強調し、念頭に置かせた。
- ・敬語をきちんと使うことの重要性を認識させるため、問題を毎回出し、学生に口頭で答えさせた。
- ・実習先とのコミュニケーションを図るため、学生に同行して事前に訪問挨拶した。また、自己紹介とともに学生が何を学ぼうとしているのかを記したメモを、事前に実習先に送付して、実習の効果を上げることを狙った。
- ・学生と研修先の都合をすり合わせながら、研修日程を決めることに苦労したが、希望者の多いスターフライヤーが7月にも受け入れるとのことで授業のある平日を避けて日程を組み立てたり、海外研修や海外留学予定の学生の都合に注意しながら、日程を決めたりした。

授業科目名【人文学入門（前期）】

- ・第二回授業（2018年4月23日）の1コマだけ、「人文学部での学び」と題して講義を行った。
- ・話の骨組み・筋道を分かりやすくすることを心掛け、大学で何のために学ぶのか、どのように学ぶのか、について、抽象論にならないように、例を挙げながら具体的に述べた。前者については、自分の価値を上げるため、後者については、問いを発したり、質問することを奨励し、知ること、考えること、コミュニケーションを取ることが重要だと強調した。
また、時間が大事であり、今の学生時代でなければできないことをしていこう、目標を持とう、そして、それに向かって小さなことの積み上げが大事であり、それが自分の「強味」になる何かとなろう、と述べた。

授業科目名【初年次セミナーⅠ（前期）】 ・教材として『知へのステップ』を使用、高校と大学での学びの違いを理解させ、自分の意見を分かり易く伝える重要性、なぜ自分はそう考えるのかをきちんと言えることの重要性を理解させることに重点をおいた。そして、実践として、自分でテーマを選び、口頭でプレゼンし、論文を作成する経験をさせた。それにより、発信することの面白さを感じ取ってもらおうとした。 - 論文作成の課程で、改善するために何をすべきかを学生と個別に面談し議論した。 ・学生に漢字の出題をさせ、仲間に答えさせる時間帯を設けることにより、飽きが来るのを避けること、参加意欲を引き出すこと、漢字という基礎学力の重要性に気付かせることを狙った。
授業科目名【初年次セミナーⅡ（後期）】 ・論文作成の過程で、3 回程度、各学生と面談して、追求したいことの「問い」の形での明示、主張したいことを初めに明示、その理由の明示など、論文改善の方向を示して、仕上げの後押しをした。 ・論文作成のルール・研究倫理として、引用文献やデータ情報源の適正な表示とその理由（著作権を侵害しないこと、情報の信頼性に関わること）、他人の文章を自分のもののように取り込むことなく、自分の論述とは区別して示すよう強調した。 ・各学生が教室で口頭発表するポスターセッションを実施したが、言いたいことが見て聞いている人にはっきり伝わるように、ポイントを示すように見本を示しつつ指導した。
授業科目名【専門演習Ⅱ（前期・後期）】 ・日本と世界の経済社会に関する学生の知識レベルと関心を高めることを3年ゼミの狙いとした。 ・日本の経済社会（人工知能(AI)、働き方改革、スタートアップ企業等）に関する解説論文（『日経大予測 2018 これからの日本の論点』と『文藝春秋の2018年の日本の論点100』）を輪読し、自分の意見を言わせるとともに、自分で疑問に思ったことを質問として書かせた。これにより、経済社会問題に対する関心と理解を深めさせるように努めた。 ・こうした議論、発表に際しては、学生のコミュニケーション能力向上を狙って、自分はこう考える、どうしてそう考えるのかを言うように指導した。 ・グループワークとして、ある商品を外国一国で作って売するための海外進出に際して必要な情報を自分たちで考える課題を与え、国際ビジネス展開への理解と関心を高めることを狙った。 ・議論においては、こうなったら、次に社会はこうなる、次にこうなると考える・予想することが大事であり、数字や事例・事実で裏付けを示すことが主張を強める大事な要素であることを強調して、気づきを促した。 ・就職対策として、自分が関心をもつ企業の研究を取り上げた。企業の社会的責任（CSR）にどう取り組んでいるか、サプライチェーン（何をどこから調達して、何を作り、誰にどのように提供するのか）はどうなっているかを発表させ、議論し深掘りを試みた。
授業科目名【卒業研究（前期・後期）】 ・卒業論文作成において、考察・論述の枠組みが筋道立っていてしっかりするように、学生各人との一対一の対話、email 交信などを通して、学生に考えさせた。とくに、何を言いたいのか、なぜ自分はそう考えるのか、という論旨を明確にすること、信頼性のあるデータ・事例などの論拠を明示することを強調した。

授業科目名【多国籍企業論（後期）】

- ・「出席票(兼)質問票・感想票」を使い、学生の理解が不十分なのはどうか、学生が関心を寄せるのはどうかを把握し、それに基づいて次の授業で解説し学生の理解の改善に努めた。
- ・学生にとって馴染みのある企業（P&G、Disney 等）の経営戦略等に関する具体的な事例、新聞記事を数多く提示し、学生が多国籍企業を身近に感じ、もっと知ろうとする意欲が高まるように努めた。
- ・写真やビデオを用いて、CSR、企業戦略などに関する事例（ナイキ等）を紹介し、書物だけではわかりにくい現場の情景を実感させ、理解を深めるように工夫した。
- ・学生自身が関心をもつ多国籍企業のホームページ・決算短信などからその企業の中核的生産活動、社会的責任、社会貢献活動などについてのレポートを提出する課題を与えた。その狙いは、その企業の活動に関する理解・認識から、その企業のファンになること、さらには就職先候補として検討するように仕向けることである。
- ・馴染んでもらいたい語句（例えば、CSR、BoP ビジネス）については、授業で学生を指して予備知識の有無を聞きながら重要性への意識を高めさせたり、また、教材の中で穴埋めの形で学生の注意を促す工夫をした。

授業科目名【ビジネス・ファイナンス（後期）】

- ・「出席票(兼)質問票・感想票」を使い、学生の理解が不十分なのはどうか、学生が関心を寄せるのはどうかを把握し、それに基づいて次の授業で解説し、学生の理解の改善に努めた。また、一方通行にならないように、学生とのやりとりを通して理解を容易にするように努めた。
- ・複雑な外国為替取引の仕組み、決算書の読み方、損益分岐点などの解説に際しては、図を多用した。
- ・財務分析を理解させ、前向きな受講態度を引き出すため、学生が個々に関心をもつ同業 2 社が実際に発表している数字を比較分析する課題を与えた。また、危ない会社を見分ける方法など、就職活動に役立てられることを狙った。
- ・EXCEL を十分使わず習い放しにしている嫌いがあると見受けられたので、EXCEL の表計算を使った収支計画の課題を与え、EXCEL の知識・スキルの有用性に気づくことを狙った。
- ・最近の新聞記事を紹介し、授業で扱っている財務の問題（営業黒字、損益分岐点比率、格付けなど）が今日的な経済問題につながっていることを示し、学生の関心を高めることに努めた。
- ・利回り計算、為替差損益などは、金融界に就職する際に求められる資格である外務員（金融商品）の試験に必須の項目であることなどを強調し、動機付けを図った。

授業科目名【応用日本語（後期）】

- ・中国人留学生が興味を持っているであろう題材を扱う新聞記事などを取り上げ、取り組み易さを図った。
例えば、訪日外国人、マンガ・アニメ、和食・ラーメン、日本の正月、茶道など
- ・日本語力向上につなげるため、i)和文レポートを課し、中間テストを実施し、添削して誤りを指摘した。
ディクテーション（聞き取り）を行い、また、尊敬語も扱った。
- ・語彙力を高めるため、一つの言葉が出てきたら、関連した言葉を示した。
例えば、没落から、沈没、露見から暴露、勢力から日本勢・中国勢など

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
国際ビジネス研究学会	会員	2002 年 10 月～現在に至る
日本金融学会	会員	2012 年 5 月～現在に至る

2018 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				

2018年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(翻訳)				
(学会発表)				
				教育研究業績 総数 (2019年3月31日現在) 著書 なし 学術論文 17 (内訳 単15 共2) 翻訳 なし 学会発表 なし

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
・バドミントン部顧問 ・学科の学生募集委員： 宮崎および鹿児島での入試説明会に参加、若干数の高校への訪問 第2回と第3回オープンキャンパスの企画・とりまとめ担当、 市主催のゆめみらいワークに参画、 一般入試（前期）以降の合格者に送付する学科からのアピール・フライヤー作成等

学部長による評価・改善記入欄（助手については、学科長による評価・改善記入欄）
※この欄は、一切公表いたしません

1. 教育活動について
2. 研究活動について
3. その他